

香福茸普及指導情報 令和6年度 第2号

初秋(8~10月)のほだ場管理

夏季～初秋はほだ木に菌を蔓延させる時期です。

ほだ場の管理が不十分だと、香福茸の発生量に影響してきます。良いほだ場の条件は、雨が良く当たり、排水が良く、適度に光（直射日光は避ける）、風が入るところとなっています。

林内で管理されている場合は、上部が込んでいると雨の入りが悪くなるので枝打ちを行うと良いです。作業を行う場合は危険が伴いますので十分注意して行ってください。

また、キノコバエの発生が始まる時期です。防護するためには、防虫ネットをかぶせることや、林内整理（落ち葉掻きや古ほだの処理 等）を行うことで被害を少なくすることができます。



キノコバエの被害状況



キノコバエの幼虫



キノコバエの成虫

初秋(8~10月)のほだ木管理

8月は残暑で気温も高く降水量も不安定な時期です。暑い時期が続き、長い期間雨が降らない場合は天地返しなどでほだ木内の水分調整をし、降雨が続き湿度が高い場合は害菌の侵入を防ぐために風通しをよくするなどが必要になります。

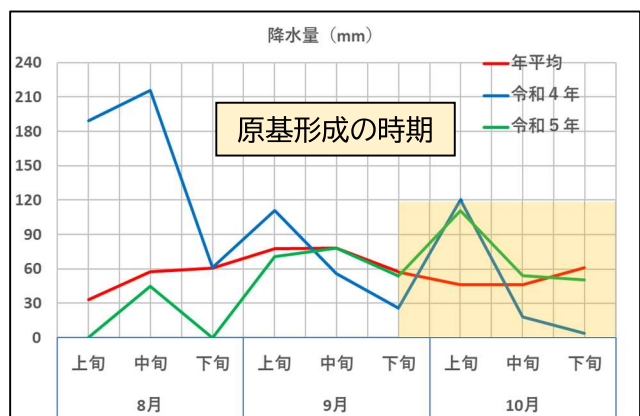
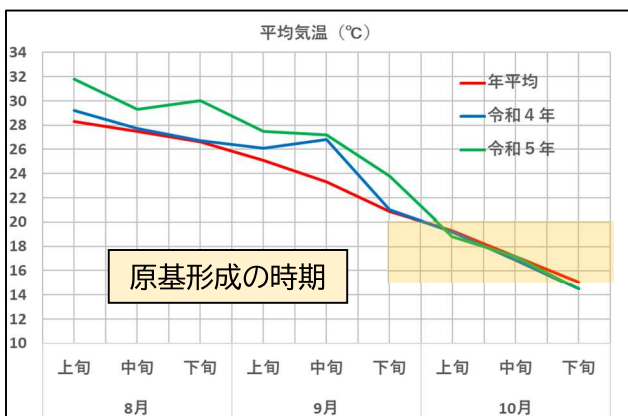
9月～10月は原基（きのこの芽）形成が行われるとても重要な時期です。

原基形成は平均気温が15℃～20℃の時期になり、水分が必要になってきます。散水を行えるのであれば、晴れの日が3日以上続く日の夕方に散水してください。

天気の流れを知るために月間、週間天気予報を見る癖をつけましょう。

散水を行う場合は、夕立や半日程度の降雨があった後少し時間をおいて30分以上行うことが効果的です。暑い時期に散水を行うと悪影響を与えるので行わないでください。

過去2年間および年間の平均気温(8月~10月)



原基形成の状況確認方法

■現在の状態を知る場合は、形成菌の蓋を取っていただき、中の状況を確認します。



ほだ木が乾燥し原基が形成されていない場合、形成菌の蓋は取れにくくなります。上手く原基が形成されている場合、原基が蓋を持ち上げ、蓋は取れやすくなります。

■菌がしっかりと蔓延しているかの確認をする場合、蓋の下のおがくずを掘り出して指でこねてみます。この時、ぼろぼろと固まらない場合菌が蔓延しておらず、ガムのようにしっかりと固まる場合は菌が蔓延しているサインとなります。



2年目以降のほだ木の管理

2年目以降のほだ木は、全体に菌が回っているため、仮伏せは行わず、採取後から本伏せを行うこととなります。管理としては一年目と変わらず直射日光が当たらない日陰箇所で風通しを良くすることが必要です。変わるところとしては、年々ほだ木内の水分が少なくなっているため、初年度より水分を与えることが生産量増加のカギとなります。また、3年目以降のほだ木は鉋等で切込みを入れると水分がしみ込みやすくなり香福茸の発生が良くなるので積極的に行ってください。



香福茸生産にかかる相談窓口

※次回の香福茸普及指導情報の発行は10月中旬の予定です。

地域	事務所名	住所	電話番号
福井市、永平寺町	福井農林総合事務所 林業部	福井市松本3-16-10	0776-21-8213
あわら市、坂井市	坂井農林総合事務所 林業部	坂井市三国町水居17-45	0776-81-3223
大野市、勝山市	奥越農林総合事務所 林業部	大野市友江11-10	0779-65-1492
鯖江市、越前市、越前町 池田町、南越前町	丹南農林総合事務所 林業部	越前市上太田町41-5	0778-23-4961
敦賀市、美浜町 若狭町(旧三方町)	嶺南振興局 二州農林部	敦賀市中央町1-7-42	0770-22-0291
小浜市、高浜町、おおい町 若狭町(旧上中町)	嶺南振興局 林業水産部	小浜市遠敷1-101	0770-56-2218
総合窓口	総合グリーンセンター 技術指導G	坂井市丸岡町楽間15	0776-67-0002